

会社概要

社 名 ●株式会社有川製作所
設 立 ●昭和35年4月11日
資 本 金 ●2000万円
代 表 ●有川 富貴
所 在 地



[本 社]
〒920-0022 石川県金沢市北安江1-8-3
アリックスビル2階
Tel.076-263-6225 (代)
Fax.076-262-8723



[旭山工場]
〒929-0447 石川県河北郡津幡町旭山7 旭山工業団地
Tel.076-288-4710 (代) Fax.076-288-4711

[東京支店]
〒107-0061 東京都港区北青山 2-7-13

従業員数 ●35名
業務内容 ●金属部品の製造販売
主要製品 ●産業機械部品、繊維機械部品、実装機部品、工作機械部品 等
主要取引先 ●株式会社アイエイアイ、SWCC株式会社、
豊田産業株式会社、ナプテスコ株式会社、
株式会社FUJI、村田機械株式会社 ※敬称略・順不同

主要設備

金型設計・製作

- ワイヤー放電加工機
- マシニングセンター
- 精密平面研磨機
- 形彫放電加工機
- 3D CAD/CAMシステム

生 産

- プレス加工機 (60t～200t)
- コイル材供給機
- タップ加工機
- バレル研磨機
- 溶接機

検 査

- キーエンス画像測定器
- 3次元測定機
- 3Dスキャナ型三次元測定機

自動機

- 協働ロボット
- キーカート搬送システム (AGV)

沿革

- | | |
|-------|--|
| 昭和35年 | 会社設立 |
| 昭和54年 | 河北郡津幡町浅田に工場新築 |
| 昭和59年 | 有川 和孝 社長に就任 |
| 昭和62年 | CAD/CAMおよびワイヤー加工機の導入を行い、
順送金型の内製強化・大量生産化 |
| 平成5年 | 順送金型を本格的に操業 |
| 平成7年 | 新本社完成 |
| 平成8年 | 河北郡津幡町旭山工業団地に旭山工場を新築 |
| 平成11年 | ISO9002取得 |
| 平成14年 | ISO9001取得 |
| 平成19年 | ISO9001 (品質)、ISO14001 (環境) 認証取得 |
| 平成27年 | 有川 明美 代表取締役社長に就任 |
| 令和4年 | 有川 富貴 代表取締役社長に就任
自動化システムの自社構築を開始 |
| 令和5年 | 小人の靴屋展示場をOPEN
第二工場建設
金型外販事業を開始
デジタルイズ事業開始 |
| 令和6年 | 3Dデジタル事業を開始
SBT認証取得 |
| 令和7年 | 東京支店立ち上げ |



有川製作所

有川製作所

【私たちの経営理念】

技術を
造る

人格を
創る

幸せを
作る



ものづくりの 未来を創る。

株式会社有川製作所は、産業機械向けの
金属部品と金型の販売を行っています。
「製造業」をもっと魅力的で面白く
クリエイティブなものに変えていくため
スタッフ一人ひとりのスキルを
最大限に発揮できる職場環境を構築し
他にはないユニークでクセの強い会社を
目指しています。

金型設計・製作

金型とは、金属や樹脂などの素材を成形するための工具です。同じ形状の製品を繰り返し製造できる金型は、あらゆる産業で使用されています。私たち金属加工業では「何を作るか」はお客様が決めますが、「どのように作るか」は私たちが決めます。長年培ってきた技術と設計者のアイデアを金型に組み込むことで、お客様に「こんな作り方ができるんだ!」と驚きと喜びを提供できる製品づくりに努めています。

DX・GX

私たちは、繰り返し作業は機械に任せ、人はより付加価値の高い仕事に従事し、働き甲斐と企業価値を高めることが重要と考えています。当社ではロボットを使った自動化システムを自社構築しており、この取り組みは「小人の靴屋プロジェクト」として全国に配信されています。また、「巨人の肩プロジェクト」としてオフィス365やチャットGPTを使ったデジタル化の推進を図っています。製造業をもっと面白く魅力的に進化させることが私たちのビジョンです。

金属加工

当社は、金型設計・製作からプレス加工、仕上げまでを社内一貫生産で行っています。実際に製品を成形する加工部門では、高品質な製品を提供するため、設備知識や材料特性の理解を深めると共に検査技能の向上に努めています。また、生産の安定化を実現するため、全工程を自社開発の生産管理システムで一元管理。ものづくりの環境整備にも力を入れ、より高精度・高品質の製品を追求しています。

デジタルイズ

「モノはあるけど図面が無い」そんなお客様の困りごとを解決するのがリバースエンジニアリング技術です。3Dスキャナ用いて現物を測定しモデリング、3DCADデータを作成することで、短期間かつ低コストで部品の再生を実現します。

採用担当者からのメッセージ

私たちは、新しい製造業の在り方を作る仲間を募集しています。

お客様に安心・満足いただける品質・納期・コストを追求し、提供することは企業責任です。

その責務を果たすには、従来の技術をデジタル化し、自動化システムやIoT技術を取り入れることで、新しい製造業のスタイルを作る必要があります。

一緒に未来を作る。そんなあなた、是非、一度工場見学にお越し下さい。

採用情報

職 種	●金型設計・製作	諸手当	通勤手当、住宅手当(※条件あり)、子供手当
	●技術営業	昇給	年一回
	●製造(機械加工・プレス加工など)	賞与	年二回
	●生産管理システムに係るSE(システムエンジニア)	勤務地	旭山工場 石川県河北郡津幡町旭山7 旭山工業団地
	●自動化システム構築に係るSler(システムインテグレータ)	勤務時間	8時25分～17時25分(休憩時間:60分)
	●営業事務・経理・広報	休日・休暇	年間休日／112日
※業務内容については、専任ではなく複数の業務を兼任する場合があります。		福利厚生	雇用保険、労災保険、健康保険、厚生年金保険、退職金制度あり(勤続年数5年以上)

01



製造部

小島 愛華

Aika Kojima

2002年生まれ。
金沢学院短期大学(幼児教育学科)卒、
2022年入社。
生産業務(プレス加工、タップ加工)に従事。

有川製作所の推しは？

当社がつくっているのは金属部品。産業機械などに使われていて、直接目にする機会はありませんが、間接的にでも社会貢献ができることが誇りです。

小さな工夫を重ねて、成長につなげていく。

大学入学当初は製造業に就くなんて考えてもいませんでした。ものづくりに興味をもったのは、幼児教育学部での保育の授業がきっかけ。画用紙や折り紙で工作をするうちに、手を動かしてものをつくるおもしろさに気づいたのです。大きな進路変更でしたが幸い両親も賛成してくれ、就活では製造業を志望しました。

有川製作所は、地元の津幡町にあることから興味を持ちました。工場見学の際、薄い板を何枚も組み合わせてつくった歯車を見せてもらい、技術力の高さを実感。自分でもつくってみたいと思いました。社員同士が仲よく話している姿から、社内の雰囲気の良さを感じたことも入社を決めた理由。実際、社内は風通しが良くて、すぐなじむことができました。

現在は、自分で希望して配属された二次加工の現場で働いています。できあがった金属部品に樹脂部品を接着したり、ネジ穴をあけた

り、色を塗ったりといった加工を行います。1日2～5種の加工を行うため、しっかり準備をして効率よく進めることも重要。最初は目安の時間内に終わらせることができず、道具の配置を変えてみるなど自分なりに試行錯誤しました。その甲斐あって、目安時間内で作業が完了することもあります。最近では、細かい部分や見た目にも気を配れるようになり、きれいに仕上げられたときは、自分の成長を感じます。

私のように、コツコツ作業をすることが好きな人や楽しみながら工夫できる人には、二次加工はとてもやりがいのある現場です。

まだうまくできない作業がいくつもあるので、今後はそれを克服して、どんな作業でも安心して任せてもらえるようになることが目標。社内講習や先輩社員からレクチャーを受ける教育制度などを活用して、一步步スキルアップしていきたいです。



02



製造部

鈴木 颯真

Souma Suzuki

1999年生まれ。
京都橘大学(歴史学科)卒、2022年入社。
生産業務(プレス加工)に従事。

社会人になって変わったことは？

有川製作所で働き始めてから、趣味でつくるプラモデルの完成度が上がりました。仕事と同じ感覚で細かい作業まで丁寧にできるようになったのだと思います。

自信を持てる、自分になりました。

就活イベントで有川製作所のブースを見つけたのは、本当に偶然。自分が生まれ育った津幡町に会社があることに縁を感じて工場を見学しました。プレス機で金属のプレートに穴を開けたり、曲げたりすることで、何百、何千という部品をつくるものづくりの現場は驚きの連続で、文系学部出身で機械に触ったことさえなかったのですが、やってみたいと思いました。さらに、当社の製品が自動ドアや産業機械の部品として社会を支えていることも、けっして前に出るタイプではない自分の性格に合っていると感じました。

現在は、順送と呼ばれる複数の工程を連続で加工するプレス作業を担当しています。

材料となる鉄板は、フープ状に巻かれたコイル材、それを打ち抜く金型も非常に大きいので、クレーンやハンドリフトで持ち上げて機械にセットします。規模の大きさに最初は不安や恐怖が強かったのですが、先輩たちに

教えてもらいながら作業を進めるうちに、自分で立てた目標を達成する日が増えました。段取りから後片付けまで一人で完了できるようになっていることに気づいたときは自分の成長を実感し、それが自信にもなりました。

当社がつくっているのは製品や機械に組み込まれる部品です。人の目にふれることはほとんどありませんが、それでもキズ一つないきれいな部品をつくるのが私のこだわり。材料の扱いに注意を払い、加工を始める前は金型を拭き上げるなど、できる限りのことをしています。たとえ小さな部品でもきれいな方がお客様もつくる私も気持ちがいいですから。

今後は、直接ものをつくることだけでなく、当社が取り組んでいる工場の自動化「小人の靴屋プロジェクト」にも関わってみたいと考えています。こんな風に初めてのすることにも挑戦してみようと思えることが、入社して3年間の一番の成果です。



03



技術部

森園 真帆

Maho Morizono

1994年生まれ。
金沢工業大学卒、2017年入社。
小人の靴屋プロジェクトの立ち上げメンバー
で現在、金型製作（機械加工）に従事。

休日の過ごし方は？

たまに、社会人になって買ったマイカーで小松方面へ買物にでかけます。今年は、のどしま水族館など能登方面へもドライブに行ってみようと思っています。

できることが増える、その実感がよろこび。

私の転機は、入社3年目。加工の自動化を目指す「小人の靴屋プロジェクト」のスタートメンバーに選ばれ、システムエンジニアとして導入したロボットのプログラミングやシステム構築を担当することになったときでした。

生産工程をひと通り経験してはいましたが、まだわからないこともたくさんありましたし、プログラミングも未経験。もともと、初めてのことで前向きに取り組める性格ですが、このときだけは不安でいっぱいでした。

上司と2人で最初に取りかかったのは、単発プレスと呼ばれる穴開け、曲げといった加工ごとに金型を変える工程の自動化。人は頭で考えて感覚で動けますが、ロボットはそうもいきません。手順をフローチャートにし、材料を置く位置、アームで掴むタイミングといったポイントを抜き出してプログラムを構築し、加工の流れを再現していきました。システムエンジニアといっても、実際は思った動きが



できるまで試行錯誤を繰り返す地道な作業の連続。でも、今まで人の手でしかつくることができなかった製品が、ロボットでできるようになった瞬間のうれしさは、想像以上でした。

その後、出荷前の検査など、いくつかの単純作業を自動化し、会社全体の生産効率を向上することができました。今は、社内で一番大きなマシニングセンターを使って、金型の部品を加工しています。

この部署への異動は私の希望。ロボットの部品や周辺機器を自社でつくれるようになれば、コストを抑えながらメンテナンスもしやすい自動加工のより良いシステムを開発できると思ったからです。

若手にも会社の将来に関わる重要な仕事を任せてくれるこの会社で働いて、チャレンジすることがより好きになりました。いつか、未知の分野である金型設計も経験して、できることをもっと増やしていきたいです。



04



技術部

竹内 雷

Rai Takeuchi

2001年生まれ。
石川工業高等専門学校卒、2021年入社。
小人の靴屋プロジェクトの現在のメンバー。
システムインテグレーターとして、自動化システム構築に従事。

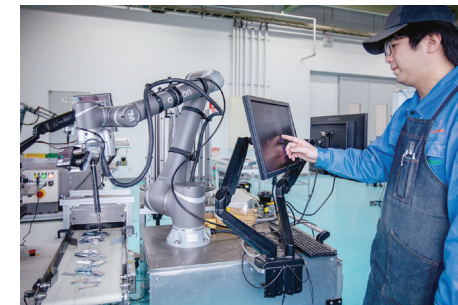
リフレッシュ方法は？

愛猫の電（はく）と遊んだり、オンラインゲームをしたりする時間が楽しみ。帰宅後や休日は仕事のことを考えず、オンとオフを切り替えるようにしています。

未来のものづくりに挑み続けます！

有川製作所では、これまで培ってきた金型やプレスの技術に、最新技術をプラスして工場を自動化する「小人の靴屋プロジェクト」を進めています。その中で私は、システムエンジニアとしてロボットのプログラミングや生産システムの開発、設備の製作などを担当しています。

当社のものづくりは、小ロット多品種が特徴です。つくるものに合わせて1日に何度も金型や材料を入れ替えるため、自動化のためにはその段取りと同じ数のプログラミングが必要です。また、生産設備そのものも手作業を前提に自社で製造しており、人が感覚で調整してきたことをロボットで再現するのが難しく、そのうえ、エラーが起きているのに停止しないといった不具合も次々と出てきます。正直、うまくいかないことの方が多いかも。そのぶん、思った通りの動きが実現できたときは、責任を果たせた気がしてほっとします。



自動化は着々と進んでいますが、加工の準備などにはまだ人の手が必要です。目指すのは、全工程が自動化され、昼夜問わずロボットが動いている状態。これまでの経験でロボットに関するスキルは少しずつ上がっており、要望に対して自分がどこまでできるのか、できないのか、その判断もできるようになりました。プログラミングについても、とにかく動けばいいという考え方から、メンテナンスのしやすさまで配慮できるようになりました。もうしばらくはこの部署で、システムエンジニアとして技術を磨いていきたいと思っています。

思い返せば、当社への入社を決めたのは社内につくった自動検査機を見て自分もやってみたいと思ったから。ロボットプログラミングの経験はなかった私が、あの時やりたかった仕事を今できていると思うと、いろいろな挑戦をさせてくれるこの会社を選んでよかったと思います。

